

科目名称：	子ども家庭支援の心理学	
担当者名：	柴田 英登	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
<p>保育者が担う役割のひとつに「保護者支援」「家庭支援」があります。その支援を有効に行うためには、子どもについての知識はもちろん、家庭・家族にはさまざまな形やそれぞれの事情があることも理解しておく必要があります。そして子どもは家族との関わりを通して発達していきます。この講義では、子どもを見つめる視点に加え、子どもと関わる家族、さらには家族を取り巻く社会までを見つめる視点を養うことを目的とします。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>①子どもの発達に関する心理学的な知識、特に子どもの初期経験となる家族との関わり的重要性について説明ができる。 ②子どもと家族との相互作用から問題を見る視点を習得する。 ③現代の家族が抱えやすい問題を、社会的状況との関連の中で考えることができる。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP (2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP (3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP (4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP (1)					0
幼児教育DP (2)	60		20	20	100
幼児教育DP (3)					0
幼児教育DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 臨床心理士	《経験年数1》 10年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で得た知識同士を組み合わせた複雑な思考ができています	講義で得た知識を適切な理解で使用することができています	不適切な部分はあるが講義で得た知識をある程度使用している	講義で得た知識を使用できず、専門性が乏しい
理解の視点と表現	問題について、社会的な背景をも含めた広い視点から説明できる	問題について、家族との相互作用を踏まえて説明できる	問題について、子どもを中心に説明できる	子どもの問題について自分の考えを持つことができていない
学びへの積極性	質問や意見など、講義内で毎回1回以上の自発的発言が認められる	質問や意見など、講義内でたびたび自発的発言が認められる	質問や意見は時々述べる程度、あるいは聴く姿勢がよい	講義に対して居眠りや私語などがたびたび認められる

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 生涯発達という視点①子どもの発達(乳幼児期～学童期)	エリクソンの心理社会的発達理論「乳児期」の重要性について復習しておく	30分
第2回 生涯発達という視点②「自分」の理解(思春期～青年期)	「アイデンティティ」の意味を、自分と関連づけて説明できるようにしておく	30分
第3回 生涯発達という視点③保護者への理解(生涯発達における成人期～高齢期)	子どもを守る立場の保護者はどのような発達課題を抱えているのか理解しておく	30分
第4回 システムとしての家族(ジェノグラム作成のグループワーク実施)	教科書p38～「2. 家族の構造と機能」を読み、わからないことは各自調べておく	30分
第5回 親の養育スタイル	不適切な養育(マルトリートメント)に至る主な要因について調べておく	30分
第6回 子育てと社会	保護者が問題を抱えたまま孤立しやすい理由について社会と関連させて考えておく	30分
第7回 子育てとワーク・ライフ・バランス	近年よく聞くようになった「ワーク・ライフ・バランス」の意味について調べておく	30分
第8回 中間まとめ	これまでの講義内容について復習する	90分
第9回 多様な子育て家庭	保育所保育指針解説p333～338を読み、「多様」とはどのようなものか調べておく	30分
第10回 特別な配慮を要する子育て家庭(保護者対応に関するロールプレイング実施)	虐待の4分類について復習しておく	30分
第11回 基本的な生活への支援	教科書第10章を読み、日常とその中に潜む危険について理解しておく	30分
第12回 子どもの心の健康	「選択性緘黙」「チック障害」とはどのような状態か調べておく	30分
第13回 障害のある子どもの理解と対応(保護者対応に関するロールプレイング実施)	前期のさまざまな講義で習った「発達障害」について復習しておく	30分
第14回 災害と子ども	教科書p138～「2. 東日本大震災直後の子ども」を読んでおく	30分
第15回 まとめ	これまでの講義内容について復習する	60分

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、教科書内容を予習し、まとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業への積極的関与(意見や質問、取り組み姿勢など)20%、提出物(毎回の感想など)20%

課題に対するフィードバック

第8回の中間試験は採点の上、第9回講義において返却します。期末試験は希望者にのみ教務を通して返却します。毎回の感想提出に関してもコメントをつけてフィードバックをしますので、授業理解度の参考にしてください。

教科書・参考書

教科書:「子ども家庭支援の心理学」 本郷一夫・神谷哲司編著 建帛社
参考書:参考資料やプリントは適宜授業内で配布・紹介します